

現場目線からの講演を今後にも有効利用

府医療保険者協議会研修会



京都府と府医療保険者協議会共催の特定健診・特定保健指導事業従事者養成研修の第1回が、10月6日（月）、府庁職員福利厚生センターで開催された。

主催者を代表して府医療保険者協議会会長の片田住夫氏は、特定健診・特定保健指導を行っていく中でどのようにアセスメントしていくか、3回の研修にすべて参加し、効果的な進め方を学んで欲しいと挨拶した。



オリエンテーションの後に、あいち健康の森健康科学総合センター副センター長兼健康開発部長の津下一代氏が「生活習慣病改善につなげるためのアセスメント支援計画保健指導の展開」をテーマに講演を行った。津下氏は対象者の視線になって進めていくことの重要性を示し、そこから生まれてくる具体的に効果的な指導の方法を紹介した。また、今後の保健指導のあり方を今までの形態と比較しながら示した。

参加者からは事例を使ったグループワークもあり、問題点が明確になったので、今後の保健指導の中で活用し成果を出していきたいと感想があげられた。

